

素敵なお花作りをするためには、花を美しく育て咲かせる園芸テクニックに加え、効果的に飾るおしゃれなデザイン感覚が必要です。色彩の組み合わせや飾る場所との調和などによって、花の良さを引き立てましょう。

## ●飾り方のポイント

### ①花の特性を生かす!

花を素敵に飾るためには、花の種類や特性をよく知ることが大切です。そして特性を生かせる容器に植え付け、適した場所に飾ります。道路に面した塀やフェンス際なら草丈の伸びるものを、高い位置のフラワーボックスや門柱などに取り付けたプランターなら垂れ下がるタイプを飾りましょう。横に広がるものやコンパクトにまとめるものは、ハンギングバスケットや小さな壁掛け鉢にまとめて植えると、可愛らしさがよく出ます。植え込むときは、株が大きく生育した場合を想定しておく事も大切です。

### ②開花期をそろえ、主役を決める!

飾った花はきれいに咲きそろわないと魅力が出ません。飾る場所アイテム、プランターやハンギング、鉢など、それぞれに開花期をそろえます。植え付けから飾り方までをとおして考え、開花期の花の種類で構成しましょう。ただ開花期だけで花を選ぶと、まとまりのない飾り方になりがちです。まず季節によって主役になる花を決め、その開花期に合わせて他の花を選べば、四季ごとにテーマを持った花飾りができます。

### ③飾る場所に合わせて立体的に!

プランターやハンギングを使えば、家の周りのさまざまな場所に花を飾れますが、飾る場所と花がよく調和し、日常の管理もしやすいことが前提です。空間を利用するハンギングバスケットや鉢スタンドなどは、生活の邪魔にならず、立体的でおしゃれな花飾りができます。

### ④花の色彩を効果的に使う!

花には豊富な花色がありますが、飾るときはできるだけ3~4色にまとめるのがコツです。また白い花を基調にすると、他の花も一層美しく表現できます。花の色選びは、背景となる建物の壁色などとの調和も大切な要素です。壁の色の濃い建物には淡く明るい花色が、色の薄い建物には、はっきりした色が似合うと思います。

### ⑤個性的なワンポイントを!

せっかく作る花飾りですから、どこにでもある容器や花の種

類ばかりでなく、手作り容器や珍しい品種も使い、個性的に展開しましょう。飾る場所を絞る、吊る、掛ける、置く、立てる、並べるなどの手法を駆使して、重点的に多量の花を飾れば、効果的なワンポイントになります。

## ●花の組み合わせ

花を飾る場合には、1種類ずつ作った容器をいくつか集めたり、1つの容器に何種類かの花を寄せ植えしたりします。その時、花の色彩や形、草丈、花の大きさなどの組み合わせが重要なポイントになります。色彩の組み合わせは、基本的に濃い花色と淡い花色の相性がよいものです。パンジーやペチュニアなどを植えるときは、各所に白やピンク系を入れると、他の色が鮮やかさを増します。ナスタチウムの鮮やかな花色に口ベリアなどのブルー系を取り混ぜたり、ルレリマツリの淡いブルーとルドベキアの濃い黄色、コスモスのピンクや白のジニア、リネアリスのオレンジ色を組み合わせれば、季節感も加わり、一層おしゃれな花作りが楽しめます。

同じ花でも、濃い花色から淡いものへと、グラデーションをつけて植えたり並べても面白いですし、同系色を集めて盛り上がるように植えれば、パンチのきいた花作りになります。

ルピナスのように高く伸びる花には、フェリシアやスイートアリッサムなど草丈の低い花を組み合わせ、高低差を強調しながらボリューム感を出してみましょう。

